

敵を愛するという生き方へ

ルカによる福音 6:27-38

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしろ。悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあろうか。罪人でも、愛してくれる人を愛している。また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあろうか。罪人でも同じことをしている。返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあろうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」

説教

先週の幸いと不幸の宣言の後、イエスさまは新しい人間関係を二つ紹介し生き方を示されます。

まずはアガペー（神の愛）と呼ばれる「敵を愛する」という生き方です。

わたしの言葉を聞いているあなたがたに言うておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください。（ルカ6:27）

この愛は自らの道徳的努力によって得られる愛というより、神に無条件に愛されている体験から生まれてくる愛です。「愛する」というのは好き嫌いといった感情、気持ちだけの問題ではありません。自分に対して敵意を示す相手に対してアガペーの行為で具体的に答えることだとイエスさまはお示しになります。それは親切にする、祝福する、祈る、ただで与えるなどです。

（ルカ6:27-35 参照）

いままではあまり聞いたことのない「神対応」という流行語があります。あるとき千歳空港で飛行機の出発がおくれ、機内で待たされている乗客はイライラしていました。そんなとき機内放送で歌手の松山千春さんのヒット曲『大空と大地の中で』をたまたま乗り合わせていた本人が1フレーズ歌い、ピリピリとしていた機内は、一気に拍手でわき上がったそうです。このエピソードはツイッターで拡散され「神対応」として松山さんの株があがりました。歌った歌手本人、歌手にマイクを渡した乗務員、歌に癒されツイッターに書き込んだ人、その他の関係者、さまざまな立場の方の愛によってこのエピソードが伝えられたのでしょう。

二つ目は「ゆるし合う」新しい人間関係です。

父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。（ルカ6:36）

ルカは赦すことを強調します。赦すことは神の業です。それは相手を裁かないこと、とがめないこと「ただで」与えることです。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに「秤」をいっぱいにするイメージは神の無限の赦しを表すことばです。ところで、赦せる力はどこから来るのでしょうか？それは、神の無限の赦しと憐れみを体験するところから来ます。まさに神に「神対応」し

ていただいた経験から「赦し」を実感することができ、神によってわたしたちは「憐れみ深い者」へと変えられていきます。
